

Kanagawa Library Association

巻頭言 神奈川の図書館この1年

～未来につなぐ神図協の役割～ 1

特集：神図協 この1年の動き

郷土・出版委員会、大学図書館委員会 2

研修委員会、広報委員会 3

研修レポート「就活支援」 4

「神奈川県子ども読書活動推進フォーラム」 4

神図協会報 200号～249号 主要記事索引 5～8

神奈川の図書館この1年 ～未来につなぐ神図協の役割～

企画委員長 坪内 一(横浜市中心図書館企画運営課長)

平成26年度の県内図書館の動向を振り返ると、いくつもの注目すべき出来事が挙げられる。

第一に言及すべきは、県立図書館の開館60周年であろう。人間ならば還暦、まさに節目の年である。建物・資料・ネットワークのいずれにおいても、時代の風を受けて戦後の図書館の歴史に輝かしい1ページを記してきた神奈川県立図書館は、県の財政難の中で逆風に翻弄され、いま新たな方向性を見出そうとしている。それはまさに、他の全ての図書館に投げかけられている課題でもある。

その意味からも注目されるのが、昨年4月からCCCとTRCの共同運営になった、海老名市立中央図書館である。谷一館長のもと、既に様々な改革が進められてきたが、本年10月の新装開館で何が変わるのか、身近なだけに武雄市図書館以上の影響を及ぼすことは必至といえる。カフェの併設や夜間開館という表面的なことだけでなく、地域の情報拠点機能、司書の専門性発揮、出版文化への支援等の面にぜひ期待したい。

横浜市では昨年、横浜市民の読書活動の推進に関する条例が施行され、18の行政区ごとに地域性を踏まえた読書活動推進の目標が策定された。図

書館の役割を一層発揮することが求められている。

川崎市立中原図書館は、再開館後2年を経過して利用は増加の一途。駅・住居・商業施設近接、都市型図書館の一つの典型として「中原モデル」と称され、更に注目を集めている。この他、鎌倉市や逗子市、綾瀬市、二宮町等でも、図書館や読書活動に関する新たな計画の策定や重点施策の推進が図られている。

大学図書館では、2年越しで準備を進めてきた相互協力協議会と大学図書館委員会の統合が整い、新たに神図協の組織として大学図書館協力委員会がスタートすることになった。地域資料委員会(旧郷土・出版委員会)や研修委員会、広報委員会の事業・活動と共に、加盟館相互の一層の緊密な連携協力のもと、資料・サービス・職員育成等の面での更なる充実が期待される。

神図協会報も今回で250号。そして協会は、平成30(2018)年に創立90周年という区切りの年を迎える。全国的にも誇れる、館種を越えたネットワークの価値をより高めていくために、今後も共に知恵を出し合い、力を尽くして、未来の図書館づくりを進めていきたい。

郷土・出版委員会

郷土・出版委員会では「神奈川県図書館協会委員会設置規程」にある委員会の目的及び事業である「郷土・書誌等の編集発行のための諸事業」として、昨年度『神奈川県皇国地誌残稿所在目録』を刊行しました。また、この編集発行作業と並行して今後の郷土・出版委員会のあり方についても検討を行ってきました。

今年度も引き続き委員会のあり方について検討を行い、3回開催した会議での検討結果では、昨今の協会加盟館においては正規職員の減少により、編集発行を目的とした委員会の存続は極めて困難であると予想されることから、今後は編集発行を前提とせず、郷土資料の編集・翻刻は自治体史編さん部局に委ね、委員会では調査研究の成果や情報提供を電子媒体による報告書の形式で発表する等の活動を行うことにしました。

また、インターネットの普及による地域資料のデジタル化や、利用者の地域資料に寄せる関心の高まりなど、地域資料に係るサービスの重点化を推進する状況にあり、協会加盟館が抱える地域資料の課題も多いことから、研究対象をこれまでの歴史資料だけでなく、広く行政刊行物やその他の資料も含めて地域資料に係るサービスの調査研究や情報提供を行うため、継続して活動することが望ましいという結論に達しました。

これを踏まえて平成 27 年度以降の活動内容として協会加盟館のデジタルアーカイブについての調査研究を行い、将来的には協会加盟館のデジタルアーカイブの横断検索やリンク集の作成を想定した具体案をまとめました。また、これとともに「協会委員会設置規程」を改正し、名称は「地域資料委員会」とし、目的及び事業を「地域資料に関わるサービスの調査研究のための諸事業」として委員会活動を行うこととした検討結果を企画委員会に報告しました。企画委員会での検討が重ねられた結果、「協会委員会設置規程」の改正が承認されました。

今後は総会での審議を経て承認された後、新たな委員会活動を展開していく計画です。引続き協会加盟館の皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

[委員長 大磯町立図書館 早崎 薫]

大学図書館委員会

大学図書館委員会では、調査研究テーマを2年度毎に定め、大学図書館が抱える時宜を得た課題に対して調査・研究し意見交換と共通認識を深め、図書館活動に繋げています。

今期(平成 25～26 年度)は、『学生の主体的な学びを支援する大学図書館』をテーマに取り上げ、調査および情報交換を重ねてきました。また、組織の簡素化と活動の活性化を目的として、神奈川県内大学図書館相互協力協議会(KULC)との統合に向けて検討を進めてきました。

KULC は、神奈川県内の大学・大学校・短期大学図書館の相互協力を通じて、図書館サービスの向上を図ると共に学術研究及び高等教育の発展に寄与することを目的として設立されましたが、KULC に加盟している大学の多くが神奈川県図書館協会にも加盟しており、永く二重構造ともいえる状況でした。そのため KULC のあり方が見直され様々な協議を経て、2014 年 12 月 9 日に開催されました臨時総会において、大学図書館委員会と統合し神奈川県図書館協会の内部組織となり、名称を「神奈川県図書館協会大学図書館協力委員会(仮称)」とする旨が承認されました。KULC 臨時総会での承認を受け、2015 年 1 月 21 日開催の神奈川県図書館協会企画委員会及び 2015 年 3 月 18 日開催の神奈川県図書館協会第 5 回理事会にて、大学図書館委員会のあり方の変更やそれに伴う協会規程の改正について承認され、平成 27 年度総会にて諮られる運びとなりました。

KULC では、加盟大学の学生がほかの加盟する大学図書館を利用することができる「神奈川県内大学図書館共通閲覧証」を発行していましたが、この制度は、神奈川県図書館協会の内部組織となっても運用方法の変更のみで継続される予定です。大学図書館委員会では、前述のとおり今期は『学生の主体的な学びを支援する大学図書館』をテーマとしておりましたが、県内の大学図書館の相互利用の簡便化を大きく推進させた共通閲覧証制度は「学生の主体的な学び」を支援する上でも重要なサービスであり、「神奈川県図書館協会大学図書館協力委員会(仮称)」の大きな柱となるものと思われます。

[委員長 相模女子大学附属図書館 澤藤 桂]

研修委員会

研修委員会では、10回の研修会を開催しました。開催日、テーマ、講師は以下の通りです。

詳しい報告はホームページをご覧ください。

(<http://www.kanagawa-la.jp/>)

回次	テーマ	開催日
	講師（敬称略）	
第1回	国立国会図書館東京本館（見学研修）	5/29
第2回	東京子ども図書館（施設見学）	7/15
第3回	事例に学ぶ企画立案と 高齢者への読み聞かせのポイントと実践	9/26
	山花 郁子（児童文学作家） 事例報告：中野 陽子（鎌倉市中央図書館）	
第4回	明治大学和泉図書館（施設見学）	11/4
第5回	[第16回図書館総合展] 「県立図書館のこれから」	11/7
	葉袋 秀樹 渡邊 斉志 葉山 敦美 末廣 恒夫 [司会]吉田 倫子	
第6回	就活支援～大学図書館と公共図書館の連携～	11/20
	道幸 俊也（関東学院大学助教） 浅香 誠一（鶴見大学図書館） 舟田 彰（川崎市立宮前図書館）	
第7回	子ども読書活動推進フォーラム （県立図書館との共催）	12/6
	山下明生（児童文学作家）	
第8回	図書館における問題利用者について ～怒った利用者への対応を中心に～	1/28
	千 錫烈（関東学院大学准教授）	
第9回	子どもに本を紹介する ～POPを作ってみよう～	2/12
	阿見 信子（株トハ・コンサルティング）	
第10回	著作権について ～視聴覚資料を中心に～	2/27
	南 亮一（国立国会図書館関西館）	

今年度も、多彩な内容の研修会を開催でき、多くの方にご参加いただきました。高齢者サービス、利用者への対応など、さらに掘り下げたいテーマの発見。研修会のグループワークで行われた活発な情報交換。図書館職員としての“学び”“交流”の大切さを実感できた一年となりました。

最後になりましたが、会場提供や講師派遣などさまざまな形でご協力いただきました加盟各館並びに関係者の皆様に改めてお礼を申し上げます。

[委員 相模原市立相模大野図書館 遠藤 恭代]

広報委員会

広報委員会では協会報の発行、ホームページの管理、図書館総合展でのブース展示を行いました。今年度の活動の内容は次のとおりです。

1 協会報の発行（年4回発行）

協会報の編集・校正等をホームページやメールなどを活用することで昨年度から広報委員会（編集会議）の回数を年3回に減らして開催しています。また、250号は、記念号として、200号から249号までの主要記事索引を掲載しました。

○247号（7月1日発行）

平成26年度神奈川県図書館協会総会報告

『神奈川県皇国地誌残稿所在目録』について

○248号（10月1日発行）

特集：県立図書館の60年

○249号（1月1日発行）

特集：第16回図書館総合展フォーラム報告
わたしのイチオシ「マリア・ルス号事件解決
記念大施」（県立図書館）

○250号（4月1日発行）

特集：神図協 この1年の動き
協会報200～249号主要記事索引

2 協会ホームページの管理運営

図書館情報誌「ライブラリー・リソース・ガイド」でも紹介された「神奈川の図書館2014」をホームページにアップし、誰でも手軽に活用できるようにしています。さらに、神図協への質問などをホームページから受け付けられるようにしました。

なお、26年度のホームページアクセス件数は7万件以上になり、昨年度より1万件増加しました。

3 第16回図書館総合展におけるブース展示

今年度は11月5日（水）から7日（金）まで、パシフィコ横浜で開催されました。神図協のブース来場者は3日間で延べ445人でした。

ブースでは、神図協各委員会の活動をパネルで紹介するとともに、協会の刊行物や加盟館からの各種パンフレットのほか、手作りブックスタンドの展示、配布も行いました。ブースには、図書館関係者だけでなく、一般の来場者も多く、展示だけでなく、選書方法や指定管理の質問など、図書館に対して高い関心が示されました。

[委員 川崎市立中原図書館 小島 久和]

研修会レポート 「就活支援～大学図書館と公共図書館の連携～」

(平成 26 年 11 月 20 日実施)

11月20日(木)鶴見大学図書館にて、第6回研修会「就活支援～大学図書館と公共図書館の連携～」を開催しました。講師は関東学院大学の道幸俊也氏、事例報告は鶴見大学図書館の浅香誠一氏と川崎市立宮前図書館の舟田彰氏にお願いしました。

まず、道幸氏から「就職活動における情報収集とその見極めから具体的行動へ」と題して大学生の就職活動の現状と今後の採用動向や課題をお話いただきました。現在の就職活動は売り手市場と言えるものの、採用方法がこれまでの一括採用からインターンシップ採用など多様化していくと考えられており、学生は積極的に自ら行動して情報収集をする必要があると話されました。日頃あまり情報の得られない学生の最新就活事情を伺えたことで、図書館が学生に対してどのような支援ができるか考える機会となりました。

事例報告では、浅香氏から鶴見大学図書館での就活支援サービスとして、就活やキャリア形成に関連した図書・雑誌・DVDを集めた「キャリア支援コーナー」や「就活パスファインダー」の作成・配布などについてご紹介いただきました。いずれの取り組みも図書館とキャリア支援課とが連携・協力して行っていることが分かりました。

続いて舟田氏からは、川崎市立麻生図書館で取り組んでいた就労・就職支援サービスについてお話いただきました。就職関連の図書やチラシ・パンフレットをまとめたコーナーの設置、特集展示の実施、ブックリストの作成・配布などを行い、こうした取り組みのPRにも努めたそうです。公共図書館の場

合、就職支援の対象は年齢も状況も様々であるため、多様なニーズに対応できるように各機関や施設と連携して情報を収集し発信していくことの必要性を話されました。

最後のグループワークでは、5班に分かれて「大学図書館と公共図書館でこんな連携事業ができたら」と思う企画を考えました。各自が付箋に書いた企画を説明しながら模造紙に貼り、内容ごとに分類していきました。短い時間でしたが大学図書館と公共図書館の職員同士が情報交換を行いながら活発に意見を出し合う様子が見られ、各班のまとめの発表でも様々な連携のアイデアが出されていました。

参加された方のアンケートにも「就活支援サービス」や「大学図書館と公共図書館の連携」について考えるきっかけやヒントを得ることができたとの声が多く寄せられました。



(川崎市立多摩図書館 大村みどり)

研修会レポート 「子どもに本を紹介する～POPを作ってみよう～」

(平成 27 年 2 月 12 日実施)

2月12日(木)相模大野図書館にて榊トーハン・コンサルティングの阿見信子氏を講師に招き、「子どもに本を紹介する～POPを作ってみよう～」が開催されました。実践的な内容を沢山の見本とともにご紹介いただきました。ご紹介いただいた内容から、ポイントをまとめてみました。

*使いやすい筆記用具：マーカー(10～12色。細い方を使用。)、黒のサインペン 0.5mm

*おすすめの字体：丸みを帯びた字。利点は、書き手のくせを隠してくれる、詰めて書いても読みやすい、目に入りやすく、印象に残りやすい。

*書き方のポイント：①そろえる ②文字は詰める ③行間は空ける の3点。

*「そろえる」：①文字の下のラインを揃える。②漢字は大きめ、ひらがなは小さめに書き、それぞれの上下の高さを揃える。字の空間を揃える。(例えば「目」と書くとき、横の線を等間隔になるように書く。

*文字の大きさ：⊕キャッチコピー、⊕ 書名。⓪本の内容紹介(近づいたら読める大きさ)

*配色のコツ：①3色(同系色は1つと数える)以上使わない。②色のイメージを大切に。例)青→冷たい印象、赤やオレンジ→暖かい印象など。③目立たせたいときは反対色を使い、まとまりを出したいなら同系色を使う。④本の表紙にある一色を使うと

統一感がでる。

*POPの文面：①ターゲットは絞ることが大切。たった1人に手にとってもらえれば良いという気持ちで書く。②なぜこの本がおすすめなのか、誰に手に取って欲しいのか。キーワードをどんどん挙げて文章をつくり、同じ言葉はないかチェックして削る。

*児童コーナーのPOP：①なるべくひらがなで書き、漢字にはふりがなをふる。②未就学児向けは1～2言に絞って書く。

*飾る：①ライン（罫線）で囲む（包装紙の切り貼り、ワインのコルクをハンコ代わりスタンプ、マスキングテープ。）②立体的にする。（フリーイラストを切貼。落ち葉を貼る。オシャレな紙袋などアレンジしてコラージュ）等々。

*子ども達の参加：イベント（職業体験や一日図書館員など）で子ども達にPOPを書いてもらう。デザインが同じ台紙に貼って展示をすると1つのコーナーとして統一感がでる。

思いがけない本との出会いは嬉しいものです。

「たった1冊の紹介でも良いです。」「図書館に行くとなにか楽しい、なにか情報があるかと思って貰えることが次の来館につながります。」という講師の言葉が心に残りました。



皆さんもPOPづくり始めてみませんか？

（鎌倉市深沢図書館 山本佳代子）

神奈川県図書館協会報 第200号～249号

主要記事索引

200号 神図協会報が今号で200号を迎えました!!!
平成14年度総会報告・役員、委員会名簿・
研修計画

主要記事索引（150号～199号）

201号 「心の時代」と図書館 協会長 吉田行夫
特集：みんなで考えよう図書館利用マナー
遠藤聡太郎、広報委員会、栗下勲

特徴のある加盟館第8回

横須賀市立児童図書館、県立地球市民かなが
わプラザ 情報フォーラム・映像ライブラリー

202号 特集：ブックスタートと図書館
佐藤いづみ、林かをり、金井雄二、福田美津江
電子ジャーナルを使ってみる 鈴木隆雄

特徴のある加盟館第9回 洗足学園大学附属
図書館 女子美術大学相模原図書館

「OPAC一括検索」の利用にあたって

203号 特集：神図協この1年の動き
企画委員長米尾暢人、デポジット・ライブラリー推進
特別委員会、県内全域利用推進特別委員会、
大学図書館委員会、研修委員会
今年度の新しい動き
県立川崎図書館のビズネス支援 田村行輝

特徴のある加盟館第10回

北里大学教養図書館

聖マリアンナ医科大学医学情報センター

204号 少しだけ、あの世 高梨章
平成15年度総会報告・事業計画・予算等

205号 厳しい時こそ図書館相互の連携を

協会長 横田和浩

特集：図書館と環境問題

広報委員会、青木滋彦、末次牧子、白石智彦

神図協小史点描(21)

池田政弘

特徴のある加盟館第11回

東京工芸大学中央図書館

206号 特集：大学図書館の一般開放と公共図書館
との連携

広報委員会、荒井稔、岩元重紀、高橋則雄、
齊藤広和、難波良平、簾信子

特徴のある加盟館第12回

青山学院大学万代記念図書館、鎌倉女子大学図書館

207号 特集：神図協 この1年の動き

企画委員長 米尾暢人、大学図書館委員会、
郷土・出版委員会、研修委員会、
蔵書評価特別委員会、危機管理特別委員会

	特徴のある加盟館第 13 回 神奈川県立保健福祉大学附属図書館 県立保健福祉大学実践教育センター図書室 職員研修会報告 インターネット予約・ホームページ PR 久根口勇 図書館の評価(指標と分析) 野末俊比古 神図協小史点描(22) 池田政弘		第 7 回図書館総合展報告 広報委員会 フォーラム報告 瀬戸清香 職員研修会報告 南亮一 県立の図書館の新システムについて 山崎隆志 神図協小史点描(27) 池田政弘
208 号	一寸の光陰 軽んずべからず 姉崎久志 平成 16 年度総会報告・役員、委員会名簿 研修計画	216 号	20 年経ったのでしょうか 伊東美貴 平成 18 年度総会報告・役員、委員会名簿・ 研修計画
209 号	魅力ある図書館を目指して 協会長 河野誠 特集: 図書館と情報リテラシー 毛利和弘、 大橋史子、五島哲男、中田孝信、三輪久美子 神図協小史点描(23) 池田政弘	217 号	特集: 知恵と工夫で惹きつける ～魅力ある図書館づくりに向けた取り 組み①～広報委員会、吉田薫、菅野智、 奥津紀子、葉山敦美、丸本伸枝 神図協小史点描(28) 池田政弘
210 号	特徴のある加盟館第 14 回 横須賀市立図書館、大磯町立図書館 特集: 学校と公共図書館の連携 広報委員会、 能川保、中野眞由美、渋谷綾子、鈴木美代子 図書館総合展が開催されました! 神図協小史点描(24) 池田政弘	218 号	特集: 知恵と工夫で惹きつける ～魅力ある図書館づくりに向けた取り 組み②～広報委員会、山内正伸、吉田隆、 澤茂樹、篠崎淑子、坂本成生 IFLA ソウル大会に参加して 浅見佳子 神図協小史点描(29) 池田政弘
211 号	特徴のある加盟館第 15 回 鶴見大学図書館 特集: 神図協この 1 年の動き 企画委員長 佃一可、蔵書評価特別委員会、危 機管理特別委員会、郷土・出版委員会、研 修委員会、大学図書館委員会、広報委員会 職員研修会報告 「指定管理者制度」を考える 研修委員会 神図協小史点描(25) 池田政弘	219 号	特徴のある加盟館第 19 回 寒川総合図書館 特集: 神図協この 1 年の動き 企画委員長 佃一可、郷土・出版委員会、 大学図書館委員会、研修委員会、広報委 員会、図書館評価特別委員会 第 8 回図書館総合展報告 広報委員会 フォーラム報告 瀬戸清香 勇退にあたって 西野一夫、武清 神図協小史点描(30) 池田政弘
212 号	特徴のある加盟館第 16 回 まなづる図書館 図書館勤務 30 年を振り返って 伊藤玲子 平成 17 年度総会報告・役員、委員会名簿・ 研修計画	220 号	20 年の軌跡と奇跡 金沢美樹 平成 19 年度総会報告・役員、委員会名簿・ 研修計画
213 号	図書館界を巡る社会状況の急激な変化と 厳しさ 協会長 津田信治 特集: 図書館職員の研修 葉山敦美、坂本和子、梅谷久美子、 高梨章、河合真帆、大塚敏高	221 号	特集: 図書館から利用者へ —情報発信の技と工夫—Part①紙媒体 松田ユリ子、大久保弥、林知希、三浦牧子、原真由美
214 号	特徴のある加盟館第 17 回 逗子市立図書館 特集: 地域資料について 森あかね、内藤彰、澁谷桂子、宮 原淳子、三浦牧子、飯塚美穂子 神図協小史点描(26) 池田政弘	222 号	特集: 図書館から利用者へ —情報発信の技と工夫—Part②電子メディ アを通じた利用者へのアプローチ 木幡浩二、津田博、湯田篤範、藤沢みどり、平野正裕 神図協小史点描(31) 池田政弘
215 号	特徴のある加盟館第 18 回 神奈川県立川崎図書館 特集: 神図協この 1 年の動き 企画委員長 佃一可、図書館評価特別委員 会、郷土・出版委員会、大学図書館委員会、 研修委員会、広報委員会	223 号	協会設立 80 周年を迎えるに当たって 協会長 磯村共庸 神図協 80 周年記念事業紹介 特集: 神図協この 1 年の動き 企画委員長 佃一可、郷土出版委員会、 大学図書館委員会、研修委員会、 広報委員会
		224 号	第 9 回図書館総合展報告 広報委員会 広い視野を持つ司書となるために 小泉明子 神図協小史点描(32) 池田政弘 20 年をふりかえって 古川左映子

- 平成 20 年度総会報告・役員、委員会名簿・
研修計画、神奈川県図書館協会名簿
- 225 号 市民とともに歩む図書館の時代へ
協会長 磯村共庸
神図協 80 周年記念事業の紹介
・記念式典
・記念講演「子どもの本が窓になる」
・パネルディスカッション
「今、改めて“司書の専門性”を問う」
・記念展覧会
「かながわの図書館 自慢のこの一点」
・神奈川新聞連載
「かながわの図書館 自慢のこの一点」
・「かながわの図書館今昔」展
・『神奈川県図書館協会の歩み 2』の刊行
神図協 80 周年に寄せて
〈歴史の中の、加盟館のさまざま〉
- 226 号 次の 10 年につなげる神奈川県図書館協会
企画委員長 佃一可
神奈川県図書館協会 80 周年記念事業報告
特集：神図協この 1 年の動き
郷土・出版委員会、大学図書館委員会、
研修委員会、広報委員会
神図協小史点描(33) 池田政弘
- 227 号 社会人 20 年生になって 鈴江夏
平成 21 年度総会報告・役員、委員会名簿・
研修計画
- 228 号 “知の宝庫”で思うこと 協会長 遠藤眞
特集：大学図書館の一般開放
森岡緑、布施達志、竹内淳
- 229 号 新規加盟館の紹介 横浜薬科大学図書館
特集：多様な図書館経営
いろいろな形態のマンパワーを活用して
小林耕平、三井悟、姉崎久志、小田切良友、風間誠司
研修委員会見学記：国立国会図書館の見学会
に（研修委員として）参加して 森谷芳浩
- 230 号 特集：神図協この 1 年の動き 協会事務局
郷土・出版委員会、大学図書館委員会、
研修委員会、広報委員会
第 11 回図書館総合展報告
フォーラム報告 鳥海須実子
ブース報告 菊池洋平
ブースアンケート報告 広報委員会
- 231 号 図書館の説明責任 協会長 中村英二
平成 22 年度総会報告・役員、委員会名簿・
研修計画
- 232 号 変化のなかで、図書館を考える 奥泉和久
特集：図書館のキャラクター
橋詰純代、塩田麻美、乙部一江、吉永信子、
安藤和重、吉田祐亮、藤澤みどり、川内直美
- アンケート集計結果
研修会レポート
①TRC 新座ブックナリー見学記 高梨潔
233 号 特集：「国民読書年」から次の一歩へ
稲葉伊岐子、嶋田久子、吉田祐亮、門倉恵、佐藤聡、
加藤庸子、深井治雄、姉崎久志、安田清高、森谷芳浩
研修会レポート②
②はじめての児童サービス 川口曜
234 号 特集：神図協この 1 年の動き 企画委員長 永
峰浩子、郷土・出版委員会、大学図書館
委員会、研修委員会、広報委員会
第 12 回図書館総合展報告
フォーラム報告 金井恵美子
ブース報告 脇麻衣子
神奈川県内の図書館キャラクター大集合
研修会レポート
③電子書籍の現状と将来について 平井利依子
④事例から考える～「図書館の自由」 原美紗江
235 号 10 年+10 年=20 年 伊藤武明
平成 23 年度総会報告・役員、委員会名簿・
研修計画
- 236 号 鎌倉市図書館 100 年に寄せて
～鎌倉市図書館と神図協～ 協会長 林秀明
特集：東日本大震災と県内図書館
アンケート「震災の影響について」の報告
その時、施設は動いた ～3.11 の神奈川県
ライトセンター 姉崎久志
一時避難所に図書コーナーを設置～横浜市
立図書館の避難者支援 菊池真理
- 237 号 特集：課題解決型サービス
～公共図書館と大学図書館の事例～
山幸、齋藤雅彦
新規加盟館紹介
(財)大倉精神文化研究所附属図書館
神奈川県立公文書館の陸前高田市被災公
文書レスキューへの取り組み 木本洋祐
研修会レポート
①図書館運営奮闘報告～私立図書館運営
の楽しみ方～ 只腰あずみ
②鎌倉市の図書館～いままで(百周年を迎え
て)とこれから(市立図書館における電子
書籍導入の課題)～ 恒次知美
- 238 号 県視連から神図協へ引き継ぐべき事柄に
ついて 梶浦唯史
特集：神図協この 1 年の動き
郷土・出版委員会、大学図書館委員会、
研修委員会、広報委員会
第 13 回図書館総合展報告
フォーラム報告 渡辺彩美
ブース展示 野神康嗣

- 研究会レポート
③「子供に絵本を手渡す大切さ」～読み聞かせが育む力～ 只腰あずみ
④事例発表「学校との連携」 鯉沼幸江
⑤「今さら聞けないインターネットのあれこれ」
メール・ツイッター・HP等の情報ツールの図書館活用について 金井恵美子
- 239号 図書館の行方と神図協 協会長 平野達夫
平成24年度総会報告・役員、委員会名簿・研修計画
- 240号 鎌倉市図書館電子書籍プロジェクト報告 佐藤敦子
特集：電子図書館への対応
千村文彦、小山信哉
- 研究会レポート
①指定管理者制度のもとでの図書館運営 石川雅明
②東京工業大学附属図書館大岡山本館見学 奥原純子
- 241号 県立図書館そして神図協の行方 企画委員長 坪内一
第14回図書館総合展報告
フォーラム報告 菅井紀子
ブース展示報告 佐々木徹
- 研究会レポート
③「子ども読書活動推進フォーラム」に参加して 吉岡伸恵
- 242号 神図協この一年 神図協事務局
特集：神図協 この1年の動き
郷土・出版委員会、大学図書館委員会、研修委員会、広報委員会
特集：図書館と市民協働 事例
川内直美、鈴木隆雄
- 研究会レポート
④児童リファレンス こどものなぜに答える 甲田友子
⑤大宅壮一文庫見学 小泉明子
- 243号 一昔ってどれくらいですか? 小山信弥
平成25年度総会報告 表彰受賞者・事業計画・役員、委員会名簿・予算・研修計画
- 244号 30年ぶりの広報委員会 広報委員長 田辺浩嗣
特集：郷土・地域資料の収集と活用
河合真帆、野村和弘
- 研究会レポート
①障害者サービス～図書館でできること～ 金井恵美子
②川崎市立中原図書館見学 田畑愛
- 245号 郷土・出版委員会の今とこれから 郷土・出版委員長 佐藤聡
特集：第15回図書館総合展
フォーラム報告 伊大知綾子
ブース展示報告 阿部真由美
- 研究会レポート
③CD・DVDの構造と修理について 利根川博
④ワークショップ・図書館の企画を考える 日比野友哉
- 新連載：わたしのイチオシ『土地宝典』
神奈川県立公文書館 佐々木徹
- 246号 国立国会図書館におけるデジタル化資料送信サービスと今後の展開
国立国会図書館電子情報部長 中山正樹
特集1：図書館におけるデジタル化資料の活用 中戸川陽子、増田雄一
連載：わたしのイチオシ『国立国会図書館所蔵明治期刊行図書マイクロ版集成』
横浜市中央図書館 望月和彦
- 特集2：神図協この一年の動き
郷土・出版委員会、大学図書館委員会、研修委員会、広報委員会
- 研究会レポート
⑧国立図書館見学・研修 吉田顕治
⑨高齢者サービスについて 金井恵美子
- 247号 一歩進んだ連携と協力に向けて
協会長 高嶋薫
平成26年度総会報告 表彰受賞者・事業計画・役員、委員会名簿・予算・研修計画
『神奈川県皇国地誌残稿所在目録』について
郷土・出版委員会
便利になりました！神図協のホームページ
広報委員会
- 248号 神奈川県立図書館開館60周年おめでとうございます 研修委員長 岡崎扶佐子
特集：県立図書館の60年 大塚敏高
- 研究会レポート
東京子ども図書館見学研究会 吉田顕治
- 249号 神奈川県内大学図書館相互協力協議会との統合 大学図書館委員長 澤藤桂
特集：第16回図書館総合展
フォーラム報告 冠野由紀子
ブース展示報告 山崎礼子
- 研究会レポート
「明治大学和泉図書館見学」 利根川博
連載：わたしのイチオシ
「マリア・ルス号事件解決記念大旗」
神奈川県立図書館 千葉篤志